



校長室から

甘利 尚之

令和4年7月4日（月）No.15

代かき・田植え～営農組合さんのご指導で



6月7日（火）に代かき、6月10日（金）に田植えを行いました。例年のことですが、地域の営農組合の皆さんに、全面的にバックアップ、指導していただきながら、児童は体験をさせていただいています。

代かきでは、着替え持参の「泥だらけになること」前提、泥の感触を存分に味わう子どもたちの姿が見られました。田んぼの中に入るといふ経験は勿論のこと、コロナ禍もあり、いわゆる「外遊び」自体も減ってきているのではないかとされている中、この体験は本当に貴重であると思います。また、こんな機会を与えていただいていることに、本当に感謝です。



田植えでは、営農組合の方々が、印をつけた田植え綱を張り、子どもたちの横に並んで一緒に植えてくれました。苗を植えそびれているところがないか、苗を多く植えすぎではないかなど指導していただきました。

時には、「自分が子どものころは、植え方が間違っていると、えらく怒られたもんだ」といった昔話も交えながら。

田植え綱は、苗と苗の適正な間隔を計るもの、間隔がしっかりわかるために「まっすぐ」植えることを支えるものであり、植える苗の本数は、分けつして茎の数が増えていく稲の性質を考えたものです。そんな「知恵」を、実践を通して教えていただけるこういった体験は、大変貴重であり、地域の方への思いを膨らめていく大切な機会になるのではないかと感じました。